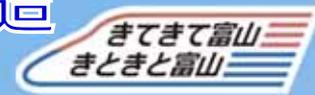
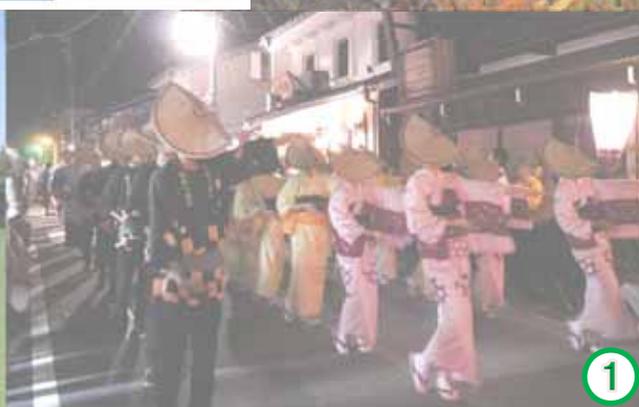
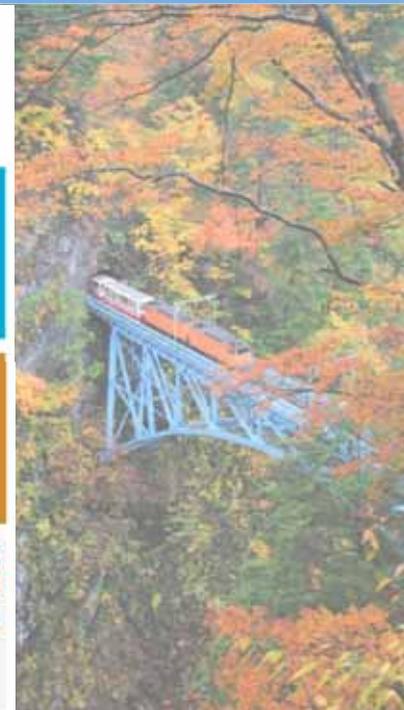


山と森から富山湾へ 清らかな水の循環の創造 (自治体SDGsモデル事業)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

| | | | | | |
|------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|--|
| <p>1 貧困をなくそう</p> | <p>2 飢餓をゼロに</p> | <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> | <p>4 質の高い教育をみんなに</p> | <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> | <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> |
| <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> | <p>8 働きがいも経済成長も</p> | <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> | <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> | <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> | <p>12 つくる責任 つかう責任</p> |
| <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> | <p>14 海の豊かさを守ろう</p> | <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> | <p>16 平和と公正をすべての人に</p> | <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> | <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて世界が共通した「持続可能な開発目標」です</p> |



SDGs 未来都市を目指すに至った背景とこれまでの取組み

水と緑に恵まれた豊かな自然環境

北アルプス立山連峰などの山岳地帯に三方を囲まれ、高低差4,000mのダイナミックな地形(標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾)、植生自然比率本州一の水と緑に恵まれた豊かな自然環境



富山湾(水深1,000m)越しの立山連峰(3,000m級)



植生自然比率本州一

水害や公害とのたたかい

官民が連携してイタイタイ病を克服してきた歴史
(汚染農地の復元、流域住民の健康調査)
県民一人ひとりの高い「環境意識」の醸成



黒部ダム
(1963年)



イタイタイ病資料館の設置(2012年)

多くの急流河川で洪水・氾濫などが頻発
...明治時代から続く治水工事
治水工事に併せて水力発電を古くから導入
...戦後の産業振興の基礎に

環日本海の中央に位置する地理的条件

対岸諸国との交流の積み重ねを活かし、環日本海・アジア交流の拠点として活発な取組みを展開



環日本海諸国図
(逆さ地図)



北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)
地域調整部
(日本海側初の国連機関(2004年~))

全国に先駆けた環境施策の推進

- ・農業用水等を活用した小水力発電の整備
- ・県民参加の森づくりの推進
水と緑の森づくり税の活用、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽
- ・全国初の県単位のレジ袋無料配布の廃止
マイバッグ持参率 95% (全国1位、2017年)
- ・とやまエコ・ストア制度の創設
レジ袋無料配布廃止に加え、資源回収や弱冷暖房等の取組を県民と協働で実施
- ・富山型リサイクルの推進(2010年10月~)
小型家電を市町村が拠点回収し、民間事業者がリサイクル

- ・G7 富山環境大臣会合(2016年) 富山物質循環フレームワークの採択
- ・「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会(2019年10月)の開催

今後の本県が目指す「SDGs 未来都市」の姿

~ 本県発展の原点である「水」に焦点を当てたSDGs未来都市等提案 ~

2030年においても「美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県」

SDGsモデル事業『山と森から富山湾へ 清らかな水の循環の創造』の概要

<「森づくり」の推進>

生物多様性の保全や野生生物との共生など地域ニーズを反映した里山林整備、森林の水土保全機能などを維持向上させつつ、持続的な木材生産との両立を目指す混交林の整備などを推進



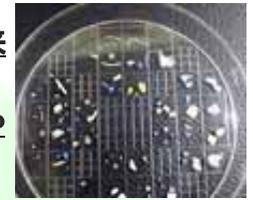
室堂平から見た立山連峰



「環境」
Environment
「水」をまもる

<海岸漂着物の削減>

本県海岸への漂着ごみの約8割が県内由来マイクロプラスチックの原因となるプラスチックや発泡スチロールの割合が高いため、その発生抑制や適切な回収・処理についての周知を拡大



マイクロプラスチック

<国際環境協力の推進>

漂着ごみなど国境を越えて影響が及ぶ環境問題の解決に向け、国連機関や北東アジア地域の自治体等と連携した国際環境協力を推進



各国で漂着物調査
ロシア・韓国は毎年調査、
中国は不定期

<健全な水循環系の構築>

地下水涵養を推進し、消雪等の地下水利用とのバランスを図るとともに、県民意識の高揚など水環境を保全する取組みを実践

美しい山と海と清らかな水の SDGsプロジェクト



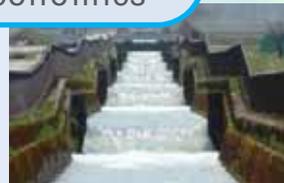
「経済」
Economics
「水」をいかにす

「水」をいたわる
「社会」
Society



<再生可能エネルギーの導入>

農業用水を利用した小水力発電の整備等による水資源の有効活用



落差を有する農業用水路

<サステナブル・シーフードの推進>

持続可能な漁業の推進



キジハタ

アカムツ



「富山のさかな」おもてなしフェア

<富山湾の恵みを活かした産業展開>

「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会の開催等、美しい海の魅力のPRを通じた観光振興など



海王丸パーク

<レジ袋無料配布廃止、使用済小型家電等のリサイクル>

県民、事業者、行政が連携協力したエコライフの実践・定着の促進

<食品ロス・食品廃棄物対策>

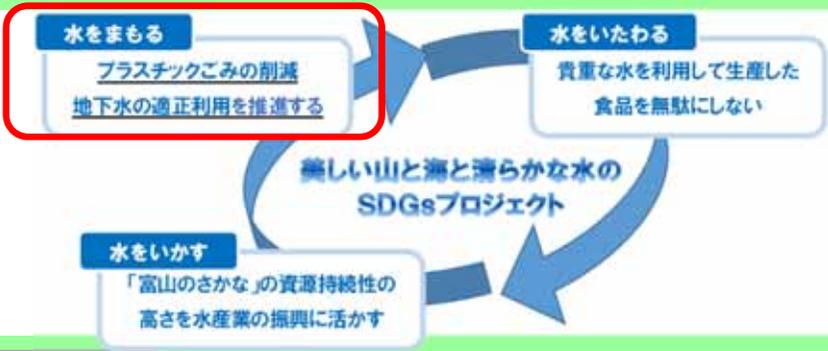
商慣習の見直しなど事業者と連携した食品ロス等の発生抑制に向けた取組みや、県民に食品ロス削減を促す意識啓発



<海岸環境の保全活動>

河川・海岸愛護ボランティアなど地域住民等による保全活動の推進





背景

マイクロプラスチック等プラスチックごみによる海洋環境への影響に対する世界的関心の高まり
 国において「プラスチック資源循環戦略」を策定(G20大阪サミットまでに) レジ袋有料化の義務付けに向けた動き など
プラスチックの環境影響の懸念
 (焼却による温室効果ガス発生と、環境中への長期残留等) さらなるプラスチック利用の合理化推進の必要

これまでの本県の実績

県内全域でのレジ袋無料配布廃止(2008年4月~)
 対象店舗の拡大など、全国に先駆けてレジ袋の削減を推進
 (累計約14億枚のレジ袋削減 CO2の削減量:約9万トン)
 「とやまエコ・ストア制度」の創設(2013年10月~)
 トレイやペットボトル等の店頭回収を推進
 「地下水の採取に関する条例」の制定、
 「地下水指針」(全国初)の策定、地下水の「創水」の推進



携帯型マイバッグの作成・配布、コンビニでの啓発

モデル事業の取組み

普及啓発活動の展開

水環境保全など水循環に係るSDGsの意義等を広く県民に啓発するフォーラムや地域活動事例の発表会などの開催

熱交換ヒートポンプへの活用など

年中温度が安定する地下水はエネルギー効率に優れる

地下水環境に関する意識高揚や地下水熱エネルギーを賢く利用する技術の普及を図るための、県民・事業者を対象としたセミナーの開催

県内の製造業等におけるSDGsへの理解と取組みの促進や、企業・行政間の連携強化に向けた企業の環境担当部門を対象とした研修会・情報交換会等の開催

実証調査・人材育成

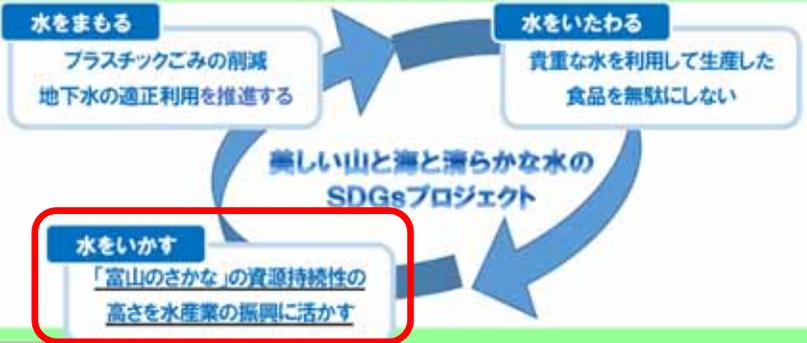
レジ袋のほか、ペットボトル、食品トレイ、ストロー等

学識経験者や消費者、事業者、行政等による「使い捨てプラスチック削減プロジェクトチーム」を設置し、レジ袋以外にも全国のモデルとなるべく取組み方策を検討

食品トレイからデポジット容器への転換 ストロー無償提供の廃止 など

スーパー、コンビニ等において、使い捨てプラスチック削減の取組みをモデル的に実施し、効果検証や課題抽出のための実証調査を実施

地下水利用者への取組みの普及を推進するための節水技術の調査や節水技術集の作成



背景

地球規模の人口増加等に伴う世界的な水産物需要の増大
 資源評価に基づく漁獲可能量（TAC）による管理を基本とする「新たな資源管理システム」の導入
 多様な水産資源を持続的に利用できるようにすることが重要
 （水産資源の適切な管理や、つくり育てる漁業の推進など）

これまでの本県の取組み

本県沿岸漁業生産量の8割以上が、環境に優しく持続可能性の高い定置網漁法による（富山湾が発祥地のひとつ）
 シロエビ漁などにおいては漁業者自らが率先して網揚げ回数や出漁日数の制限等の資源管理を実施
 「サステナブル・シーフード」推進の素地



モデル事業の取組み

普及啓発活動の展開

- サステナブル・シーフード＝「富山のさかな」を生み出す、定置網漁やシロエビ漁等の環境に優しい富山湾の漁業を世界に発信する映像（多言語）の作成



上空から見た定置網

- サステナブル・シーフード＝「富山のさかな」を生み出す沿岸地域の魅力を紹介する冊子の作成（魚市場、漁港周辺の直販施設、食べ処、祭り等）

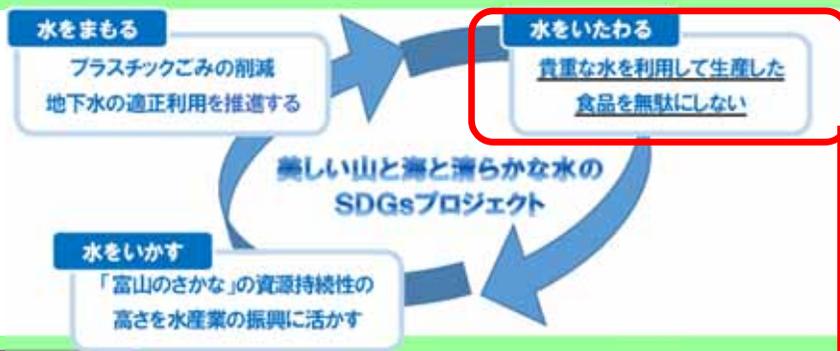
実証調査・人材育成

「富山のさかな」＝サステナブル・シーフードを客観的に市場や社会に発信するため、水産エコラベル認証制度の取得を目指す漁業者のグループ・団体・法人等を支援



定置網漁の様様

水産エコラベル認証に必要な資源管理の状況を示すデータ整理に対する支援等



モデル事業の取組み

背景

日本全体で排出される食品廃棄物・・・年間約2,842万トン
 うち「食品ロス」は年間約646万トン(農林水産省及び環境省H27推計)
 世界全体の食料援助量(約320万トン)の約2倍に相当

日本では食料の約6割を海外に依存しているにも関わらず
 大量の食品ロスが発生
 資源の有効活用、CO2削減の観点からみて、非常に大きな問題

これまでの本県の取組み

県内の家庭や食品関連事業所からの食品廃棄物は年間約17.0万トン、食品ロスは年間約4.3万トン
 県民一人当たり、毎日小さな茶碗一杯分(約110g)を廃棄している計算



県内で捨てられた手付かず食品
 (H28~29県実施「食品ロス・食品廃棄物実態把握調査」資料)

食品流通段階における食品ロスの発生要因の一つとされる「1/3ルール」について、「飲料及び賞味期間180日以上菓子」の納品期限を「1/2ルール」に緩和する方向で県内関係者が合意(H31.3.29 商慣習見直し共同宣言)

普及啓発活動の展開

○食品ロスを生む要因となっている消費者の極端な鮮度志向の改善や食べ残しの削減などについて啓発を図るため、テレビCMを制作・放送

消費者理解の広がり
 +
 フードチェーン全体の協力



余っている食材を持ち寄り、おいしい料理に変身させる「サルベージ・セミナー」

本県が食ロス削減運動のフロントランナーに

モデル事業以外の取組みも一体的に実施し、「水をいたわる」サステイナブルな営みを県民の日常に

県民 県民総参加の「とやま食ロスゼロ作戦」

企業 食ロス削減に向けた小売店の活動支援
 「商慣習見直し宣言」事業者の拡大

行政 意識啓発の推進、県政番組・
 広報誌・SNS等の活用

モデル事業推進のプラットフォーム - 多様なステークホルダーとの連携 -

全庁的な地方創生の推進体制

とやま未来創生推進本部

(所掌事務)

とやま未来創生戦略の策定・検証
地方創生・人口減少対策に関する施策の企画・調整及び推進
SDGs達成に向けた取組みに関する施策の企画・調整及び推進

(構成)

本部長 : 知事
副本部長 副知事
本部長 公営企業管理者、教育長、全部局長

部局横断的かつ全庁的な検討

連携

プロジェクトチーム

(構成)

座長 総合政策局長
メンバー 関係部局長

具体的な対策の検討

とやま未来創生戦略 2019
(改訂版)



本県総合戦略「とやま未来創生戦略」
にSDGsの推進を位置づけ
(2019年3月改訂済み)

富山県SDGs推進連絡協議会（仮称）

経済産業分野

富山県商工会議所連合会、富山県商工会連合会、
富山県中小企業団体中央会、富山県経営者協会、
富山経済同友会、富山県銀行協会、
富山県農業協同組合中央会、富山県森林組合連合会、
富山県漁業協同組合連合会、富山県内水面漁業協同組合連合会

観光分野

とやま観光推進機構(交通事業者、旅行業者、行政など)

有識者等

富山県PTA連合会、富山県消費者協会、富山県婦人会、
富山県広告協会、日本青年会議所富山ブロック協議会、
(一社)環境市民プラットフォームとやま

行政

富山県市長会、富山県町村会、富山県

多様なステークホルダーとの連携

環境団体

・とやま環境財団
・北東アジア地域
自治体連合会
環境分科委員会
・環境とやま県民
会議 等

消費者団体

・消費者協会 等

市民団体

・河川愛護団体
・美しい富山湾
クラブ 等

大学・研究機関

富山大学、富山県
立大学等

事業者等

富山県食品ロス・
食品廃棄物削減
推進県民会議

『美しい山と海と清らかな水のSDGsプロジェクト』が生む相乗効果

「経済」 「環境」

事業活動に伴う環境負荷の低減

- ・使い捨てプラスチック削減や資源回収に取り組む事業者の拡大
認定エコ事業所、エコ・ストア制度を通じた環境負荷低減
- ・食品ロス・食品廃棄物の削減による経済的損失の減少
資源の有効活用と両立した経済活動の定着
- ・環境に配慮する消費者の需要拡大...水産物付加価値の向上
持続可能な漁業の振興



「環境」
Environment

「水」をまもる

美しい山と海と清らかな水のSDGsプロジェクト

「社会」 「環境」

県民生活に伴う環境負荷の低減

- ・市町村(住民)や事業者と連携した3Rの推進
消費者のライフスタイル変革を促し、
ごみのリサイクル率を向上
- ・食品残さ等のエコフィード利用など、
食品ロス等削減の取組み
CO2の発生抑制・環境負荷の低減

「環境」 「社会」

県土の美しさに対する県民の誇りの醸成

- ・水環境に関する住民啓発(本県海岸漂着物の8割が県内由来)
清掃美化活動の推進
美しい水環境・県土を誇る県民意識の醸成

「環境」 「経済」

観光資源・水産資源の付加価値向上

- ・清掃美化活動などによる富山湾の魅力向上
観光振興や地域活性化
- ・環境に配慮する消費者行動の拡大
「富山のさかな」のブランド力向上、
販路拡大による水産業の成長産業化



「経済」
Economics

「水」をいかにす

「水」をいたわる

「社会」
Society



「社会」 「経済」

エシカル(倫理的)消費のマーケット拡大

- 環境に配慮した消費行動の増加
県内におけるエシカル消費の拡大

「経済」 「社会」

事業活動における県民エコ活動への協力促進

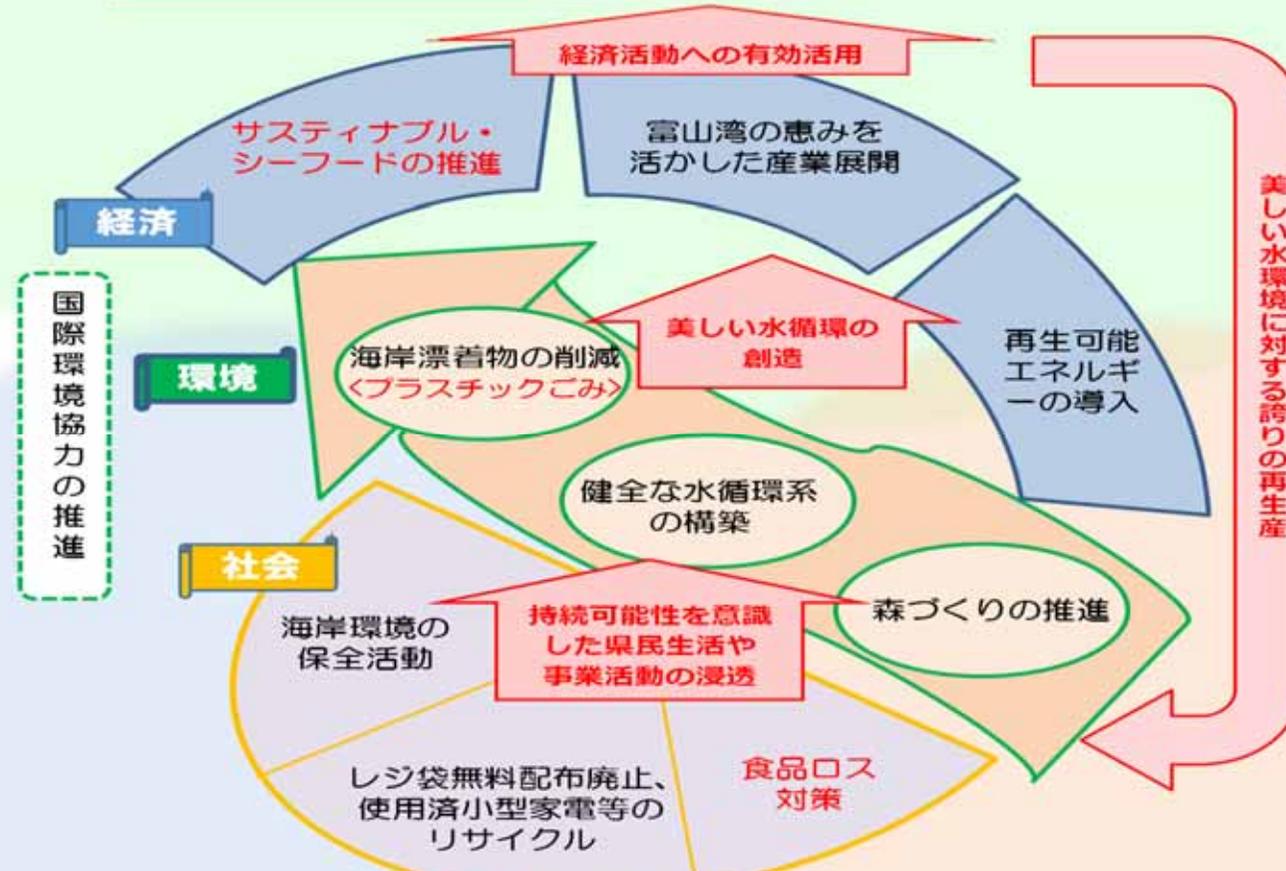
- 県民参加型のプラスチックごみ削減の取組み
民間事業者と連携した循環型社会づくりの促進

自律的好循環の形成に向けて

富山県SDGs推進連絡協議会（仮称）

市町村、経済界、有識者、NPOなど多様なステークホルダーが参画する「富山県SDGs推進連絡協議会（仮称）」を設置し、SDGs達成に向けた取組みを富山県全体で推進
多様なステークホルダーの自主的・自律的取組みを促進

3側面の取組みが有機的に連携する仕組み



県民や事業者等に対する意識啓発、先進的な取組への支援等による水循環を意識した県民生活・事業活動の浸透・定着

SDGsの取組みを自律的な県民運動に